

おはすらの、吾は女なれば、汝命をおきてほかに夫はなしといふこゝろなり、これは男は身のほ
どにあはせては、いくら妻をもちたらんもあしからず、女はたゞひとりのみ夫はもつべき婦道
の教へあるによりて、かくはいひ給へるなり、

兄弟

〔新撰字鏡 親族〕昆波良加良

〔釋親考〕男子先生爲兄、後生爲弟、

正字通、兄者、男女之通稱、故今女先生者稱姉、稱女兄、正韻、一東兄註引爾雅專屬男非、

胤按、正字通說不可從、

〔東雅人倫〕兄

弟オトウト 姉ア子 妹イモウト 古語に兄をばせといひ、弟をばナセと

いひ、姉をばナ子といひ、妹をばナニモといひ、けり、亦兄をイロ子といひ、弟をイロトといひ、姉を

イロセともいひ、兄弟姉妹相稱して、ハラカラなども云ひしは、皆是同母兄弟姉妹なるを云ふ也、

兄をセといひ、弟をナセといひ、姉をナ子といひ、妹をナニモといひ、事日本紀に見えしなり、

其ナといひ、ナニといひ、ナニといひ、汝也、兄の字舊讀てエといひ、けり、エといひ、セといひ、子といひ、

轉語也、ナセといひ、ナ子といひ、汝也、井に汝兄といふが如し、ナニモといふは、即汝妹なり、萬葉集抄

に、イモといふは、イハ發語の詞なり、モとは向ふの義也、見えたり、古歌に、兄弟の事を、箸向ふと

云ひしが、如くなるべし、古の俗、妻をもイモと云ひしは、相親しむの謂を見えたり、子とは同母兄弟

姉妹を稱して、イロ子とも、イロトとも、云ひしは、則イロハ也、母をいふなり、子とは同母兄弟

トとは、兄弟也、猶甲をエと云ひ、乙をトといふが如し、イロセとは、エといひ、セといひ、子とは、

同母の兄弟をいふ、古事記に、素戔嗚神自ら稱して、天照大神の伊呂勢者也、のたまひし、轉語也、

見しは、弟をもイロセと云ひしなり、昆弟相當の稱にして、ハラとは、腹也、古語にヨリといふ、詞もアヒダ

こそ見えたり、ハラカラとは、猶同胞といふが如し、ハラとは、腹也、古語にヨリといふ、詞もアヒダ

むなり、同じき腹の間より出でしを云ひし也、たゞ其義の如きは不詳、其後又兄をばア三といひ、

姉をばア子といひ、弟をばオトウトといひ、妹をばイモウトといひ、相通じては、兄姉をもセウ

トといひ、弟妹をもオトウトといひ、まに兄をばコノカミなどいひけり、ア二といひ、ア子といひ、

アナといひ、オといひ、オといひ、カホといふが、少男讀でナトコといひ、少女讀でナトメといふは、並に兄也、

イモウトとは、妹人也、舊事紀日本紀に、少男讀でナトコといひ、少女讀でナトメといふは、並に兄也、

とは、于上也、その我よりさきに生る、事を云ひし也、